

第2回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会

(概要)

先般開催した、令和3年度 第2回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和3年9月28日(火) 14時00分～16時00分

2. 会場

Web 開催

3. 検討結果

民有林の供給が本格化しないなか、梱包・パレット・栈木・羽柄材で旺盛な需要があり、各工場の原木在庫が増加せず充足していない。国有林材については旺盛な木材需要に対して安定的に原木を供給するとともに、各地域の需給状況に応じた対応が必要である。対応策として引き続き「立木販売の前倒し」「生産した素材の早期販売」を実施することとした。

4. 主な意見等

○8月期製材工場動態調査速報において、トドマツ・エゾマツとカラマツの原木消費量は新型コロナの影響から回復し在庫量は減少している。トドマツ・エゾマツは国有林の公売前倒しもあり、ある程度在庫量が増えている事業者もある。

羽柄・栈木・梱包・ラミナについて需要は引き続き旺盛で、秋以降の原木出材増に期待したいという声がある。現状においては原木不足の状況が続いている認識。

○下刈りがほぼ終了し間伐等の森林整備事業に移っている。苗木不足等の影響で一部秋造林が中止になり秋以降の間伐事業が遅れる地域もある。そのため主伐事業が後ろにずれ込むことも考えられる。

昨年はコロナの影響で原木受け入れ制限等がありトドマツ等の伐採を見送ったが、今年はその分の伐採を進めた。カラマツについては地区によっては品質が落ち、製材原木や合板向けの出材割合が減っている印象がある。原木の在庫は減る一方で平均2ヶ月弱、なかには1週間分の在庫もない事業者も散見される。

国有林にはこれまで通りの供給を期待したい。

○原木生産量・消費量ともに例年並みで思ったよりは増えていない印象、価格は単発的に高値も出ているが平均的には上がっていない。一方製材価格は順調に上がっており、特に道央圏が顕著。製材については全体的に相変わらず不足しているが生産量は増やせない状況。

ホワイトウッド等の輸入材価格についてはピークを迎えている印象。入荷等はないが当社では受注製品や代替品等に対応している。

○生産については順調、アンケート調査結果ではコロナの影響はあまりない様子。本州ではウッドショックが騒がれているが北海道ではあまり影響がみられない。大半の事業者が生産量的に手一杯で増産は厳しいこともあり、立木販売の入札が減っているのではと感じている。

生産・供給量を増やすためには現状では限界があり、生産体制や雇用対策・労働環境の改善なども必要ではないかと考えている。

○各製材工場で梱包材と一般製材の注文が多く捌き切れていない。事業者のなかには原木在庫が1ヶ月を切ったところもある。素材生産事業者が請負に入ったため原木確保に不安感を抱いている。

梱包・パレット・プレカット関係でドマツの使用が進み、公売等の価格も上がっている。本州からラミナの引き合いが強く高値での取引もある。カラマツについては製材工場の手持ちはかなり少ない。

輸入製材については入荷価格がピークになり、2~3月まではピークのもが入荷する見込み。移出合板は去年の受け入れ制限から完全に回復した。

○バイオマス発電の原料は林地枝条チップ等の活用により現在潤沢。積極的に国産材を使用し、年内はこのような状況が続くと思われる。パルプ材の流通がやや減少している要因に、中国等への輸出用低質材利用が旺盛になりパルプ材が一般材に格上げ使用されていることも考えられる。

王子エフテック江別工場のパルプ生産が12月に停止する関係で毎月2,000m³程度あった広葉樹消費の行方や、王子マテリア名寄工場では古紙輸送の往復荷物へ丸太がかなり組み込まれていたため、操業停止により道内の輸送状況に変化が出てくるのではと考えている。

○ドマツ製材について現在の原木在庫は1.5ヶ月分程度で安定して集荷している。需要が旺盛で生産量を増やしたいが難しい部分がある。人手や暑さによる原木の質の関係もあり原木消費量が去年と変わっておらず製品の出がよくない。しばらくこのような状況が続くと思われる。供給については引き続き増やして欲しい。

○カラマツのパレット・梱包材はいまだ忙しく年内は続く見通し。生産量は去年に比べ増えているが大口の注文が減り、中身が細かくなっている。毎日2時間の残業を行って対応しているが、この数ヶ月間入荷よりも生産量が多い。在庫は0.7ヶ月弱と1ヶ月分を割り、原木状況はタイトで適木不足である。本州方面の事業者が建築材に戻る等の影響で、2ヶ月先まで注文が来てしまうこともあり調整を行っている。

11~3月の間に来年に向け、2ヶ月分の適正在庫が確保できるかが心配。生産量を増やすためにも業界として人手や効率的な体制の確保は重要な課題と考えている。

○苫小牧・白糠の工場は原木を順調に入荷している。苫小牧ではおよそ10ヶ月分の在庫があり林地残材チップを3割程使用し、原木には余裕がある。白糠ではおよそ1年分の在庫があり、量は少ないが釧路市から選定枝を半年で100t程度受け入れをしている。

ウッドショックについて、2~2.5倍の価格を出していた2×4材の値段が下がってきた。またパーティクルボードや野地板の引き合いが強くなってきたが、人手不足等で需要に対応し切れていない